

第4回超低出生時代を迎えた 津久見市の小学校の在り方検討委員会

- 1 子どもの願い (アンケートから)
- 2 学びの環境 (ヒト・モノ・ジカン)
- 3 学びの設計図 (教育課程)
- 4 未来の教室 (紹介)
- 5 めざす姿 (津久見市)

令和8年7月28日(火)

大分県教育庁義務教育課 眞田 貴弘

第4回超低出生時代を迎えた 津久見市の小学校の在り方検討委員会

1 子どもの願い（アンケートから）

- 2 学びの環境（ヒト・モノ・ジカン）
- 3 学びの設計図（教育課程）
- 4 未来の教室（紹介）
- 5 めざす姿（津久見市）

新たな「大分県長期教育計画」策定に向けた子どもへの意見聴取

○国立・公立・私立小学校5～6年生、義務教育学校5～6年生（Webアンケート調査）

学校に望むこと 先生やまわりの大人にしてほしいことを 優先度が高いものから3つ選択

- ① もっとわかる授業や自分の力に合った授業がおこなわれること
- ② 命を大切にし、他人を思いやることの大切さを学ぶ授業や活動がおこなわれること
- ③ 楽しく運動ができる授業などがおこなわれること
- ④ 体が不自由だったり、けがをしたり病気になったりしても、安心して学べること
- ⑤ 英語などを使って外国人と交流したり、外国について学べたりする授業がおこなわれること
- ⑥ 進学や仕事について見たり、聞いたり、体験できること
- ⑦ 辛いことや悩みがあれば話を聞いてくれること
- ⑧ 学校に行きづらくても、学習したり他の人とふれあったりする場所や方法があること
- ⑨ 地震や津波などのときに自分を守るための勉強や、防災について学べること
- ⑩ タブレットやパソコンを使った授業がおこなわれること
- ⑪ 好きな運動・音楽・美術など、スポーツ少年団や部活動、スポーツクラブの活動に参加できること
- ⑫ 先生と話や相談ができる時間がたくさんあること
- ⑬ 地域の人とふれあい、一緒に活動すること（地域の人との放課後学習や地域のお祭りなど）
- ⑭ 身近な地域の文化や歴史を学ぶ活動がおこなわれること

新たな「大分県長期教育計画」策定に向けた子どもへの意見聴取

○国立・公立・私立小学校5～6年生、義務教育学校5～6年生（Webアンケート調査）

①個別最適な学び

②心の教育の充実

③体育の充実

⑩ICTの活用

学校に望むこと
先生やまわりの大人にしてほしいことを
優先度が高いものから3つ選択

- ① もっとわかる授業や自分の力に合った授業がおこなわれること
- ② 命を大切にし、他人を思いやることの大切さを学ぶ授業や活動がおこなわれること
- ③ 楽しく運動ができる授業などがおこなわれること
- ④ 体が不自由だったり、けがをしたり病気になったりしても、安心して学べること
- ⑤ 英語などを使って外国人と交流したり、外国について学べたりする授業がおこなわれること
- ⑥ 進学や仕事について見たり、聞いたり、体験できること
- ⑦ 辛いことや悩みがあれば話を聞いてくれること
- ⑧ 学校に行きづらくても、学習したり他の人とふれあったりする場所や方法があること
- ⑨ 地震や津波などのときに自分を守るための勉強や、防災について学べること
- ⑩ タブレットやパソコンを使った授業がおこなわれること
- ⑪ 好きな運動・音楽・美術など、スポーツ少年団や部活動、スポーツクラブの活動に参加できること
- ⑫ 先生と話や相談ができる時間がたくさんあること
- ⑬ 地域の人とふれあい、一緒に活動をすること（地域の人との放課後学習や地域のお祭りなど）
- ⑭ 身近な地域の文化や歴史を学ぶ活動がおこなわれること

5 質問調査結果（児童生徒、学校）【速報】

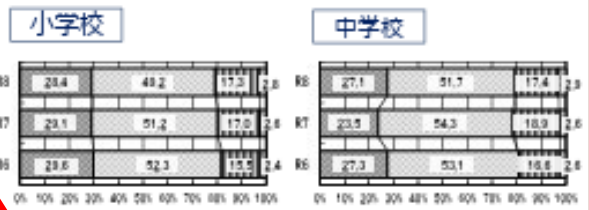


学習指導要領の趣旨を踏まえた取組

◆ 昨年度までと同様、約80%の児童生徒が「主体的・対話的で深い学び」に取り組んだと考えている。

課題の解決に向けて自分から取り組んだ

■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる
■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない

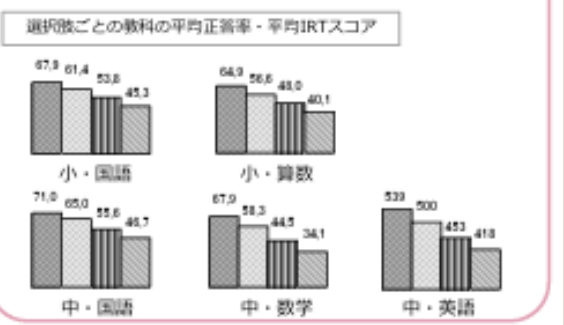


1 「主体的・対話的で深い学び」に取り組んだと考える児童生徒は、各教科の正答率・スコアが高い傾向。

児童生徒質問「課題の解決に向けて自分から取り組んだ」の選択肢ごとの教科の正答率・スコア

課題の解決に向けて自分から取り組んだ

■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる
■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない



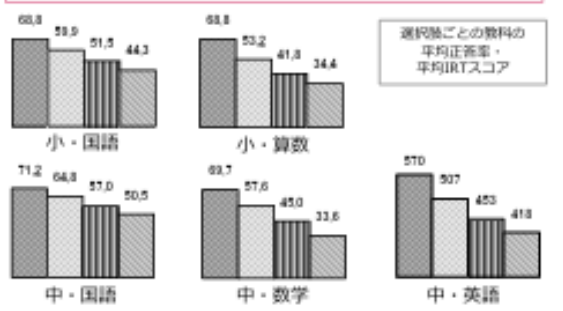
※「課題の解決に向けて自分から取り組んだ」以外の「主体的・対話的で深い学び」に関する回答でも同様の傾向。

各教科への興味・関心、理解度

2 「授業の内容がよく分かる」と回答した児童生徒は、各教科の正答率・スコアが高い傾向。

授業の内容がよく分かる

■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる
■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない

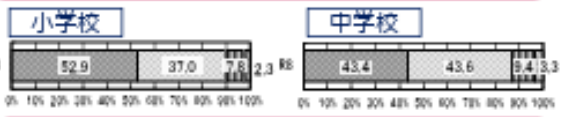


ICT機器の活用

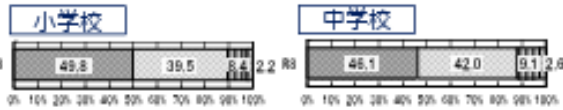
3 約90%の児童生徒が、ICT機器を活用することで「楽しみながら学習を進めることができる」「友達と協力しながら学習を進めることができる」と考えている。

■ そう思う ■ どちらかといえば、そう思う
■ どちらかといえば、そう思わない ■ そう思わない

楽しみながら学習を進めることができる



友達と協力しながら学習を進めることができる

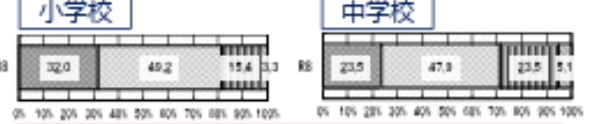


挑戦心や好奇心

4 約70%～90%の児童生徒が、挑戦心や好奇心に関する質問に肯定的に回答している。また、そのような児童生徒は、各教科の正答率・スコアが高い傾向。

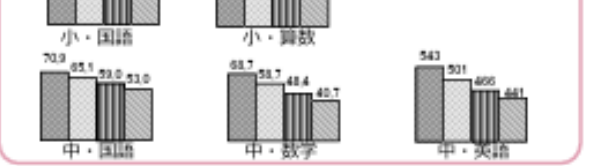
課題が難しくなると、さらに努力する

■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる
■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない



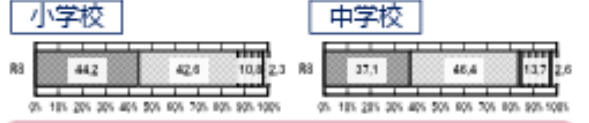
新しいことを学ぶのは好きだ

■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる
■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない



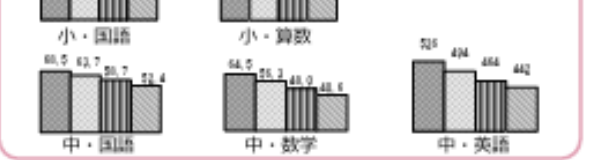
新しいことを学ぶのは好きだ

■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる
■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない



新しいことを学ぶのは好きだ

■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる
■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない



※中学校英語はCBTで実施し、英語4技能のIRTスコアにより結果を表示している。

こども基本法（R5.4施行）

こども基本法は、日本国憲法および児童の権利に関する条約の精神にのっとり、全てのこどもが、将来にわたって幸福な生活を送ることができる社会の実現を目指し、こども政策を総合的に推進することを目的としています。同法は、こども施策の基本理念のほか、こども大綱の策定やこども等の意見の反映などについて定めています。

こども施策は、6つの基本理念をもとに行われます。

1 すべてのこどもは大切にされ、
基本的な人権が守られ、差別されないこと。

4 すべてのこどもは年齢や発達の程度に応じて、
意見が尊重され、こどもの今とこれからにとって
最もよいことが優先して考えられること。

こどもたちの今と「これから」を考えていくこと

権利が守られ、平等に教育を受けられること。

3 年齢や発達の程度により、
自分に直接関係することに意見を言えたり、
社会のさまざまな活動に参加できること。

家庭と同様の環境が確保されること。

6 家庭や子育てに夢を持ち、
喜びを感じられる社会を
つくること。



こども家庭庁HPより

初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について（諮問文）

（理由）

深刻さを増す少子化・高齢化、協調・競争と分断・対立により混迷の度を増すグローバル情勢、気候変動に伴う自然災害の激甚化、生成AIなどデジタル技術の発展といった**大きな変化**があいまって、社会や経済の先行きに
対する不確実性がこれまでになく高まっています。これからの我が国を担う**子供たちは、激しい変化が止まることのない時代を生きることになります。**

ChatGPT「2040年に向けて小学校教育はどうあるべきか？」

2040年の社会を見据えると、小学校教育は、知識を覚えるだけでなく、自ら課題を見付け、考え、判断し、他者と協力して解決する力を育てることが重要である。

また、AIを適切に活用する情報活用能力や、相手を尊重して伝え合う言語能力、多様な人々と協働する力を身に付ける必要がある。

さらに、変化の激しい社会の中でも学び続ける姿勢や、自分らしく豊かに生きるための主体性を育む教育が求められる。こうした資質・能力を育成することで、未来を切り拓く子どもたちを育てる小学校教育が実現すると考える。

ChatGPT「2040年に向けて小学校設備はどうあるべきか？」

2040年の小学校の校舎には、変化の激しい社会に対応した学びを支える設備が求められる。教室は可動式の壁などを活用し、個別学習や協働学習、探究学習に柔軟に対応できる空間であることが重要である。また、校内全域で高速通信が利用できるICT環境や、AIを活用した学習を支える設備を整備する必要がある。さらに、バリアフリー化やクールダウンスペースの設置など、多様な子どもたちが安心して学べる環境づくりも欠かせない。加えて、太陽光発電や蓄電池、防災機能を備え、災害時には地域の避難拠点として活用できる機能も重要である。学校は、子どもたちの学びを支えるだけでなく、地域とつながり、未来の社会を支えるコミュニティの拠点となる校舎を目指すべきである。

第4回超低出生時代を迎えた 津久見市の小学校の在り方検討委員会

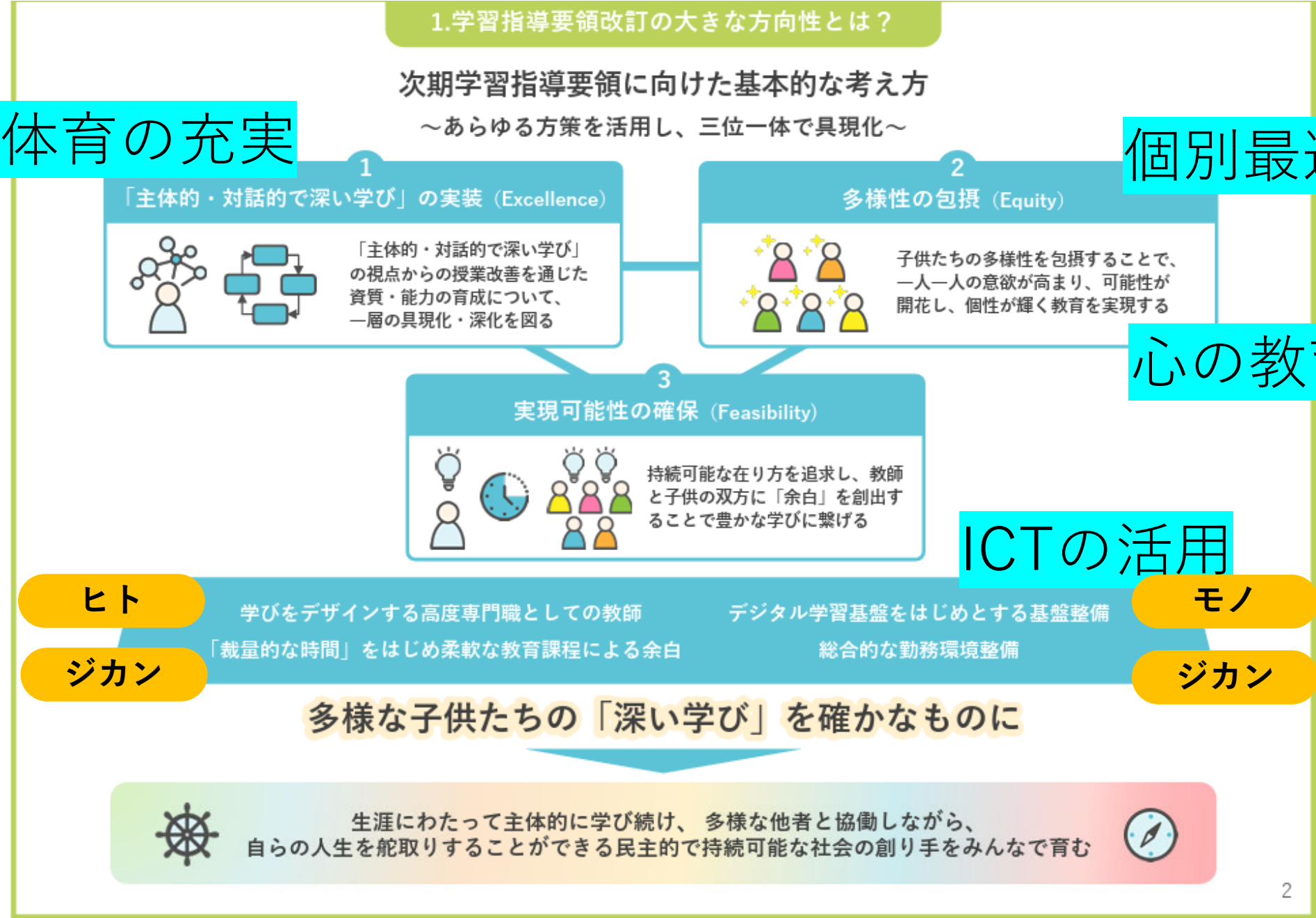
- 1 子どもの願い (アンケートから)
- 2 学びの環境 (ヒト・モノ・ジカン)
- 3 学びの設計図 (教育課程)
- 4 未来の教室 (紹介)
- 5 めざす姿 (津久見市)

学習指導要領等の改訂に関するスケジュール（イメージ）

※今後変更の可能性がありうる

令和8年7月8日
教育課程部会
総則・評価特別部会
参 考 資 料 3





体育の充実

個別最適な学び

心の教育の充実

多様な専門性を有する質の高い教職員集団の形成を加速するための方策について（諮問文）

これまでも、そして、これからも教師は公教育の要です。
そして今は特に、「令和の日本型学校教育」の実現という目標の下、**学びに関する高度専門職としての教師及び教職員集団**には、**新たな学びを展開できる実践的指導力**を発揮することをはじめ、高度化・複雑化する教育課題に的確に対応していくことが期待されています。

～ 省略 ～

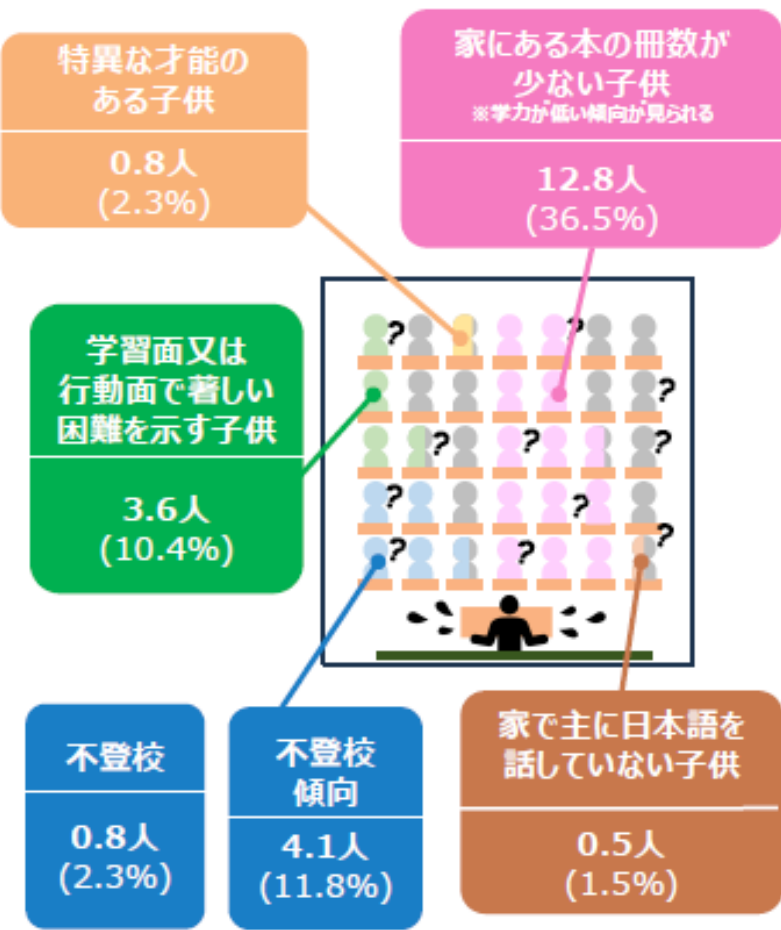
その中で、**教師に求められる役割は、子供たちの主体的な学びへの効果的な支援・伴走へと転換**していきます。

児童生徒の多様性を包摂する必要性（小・中）

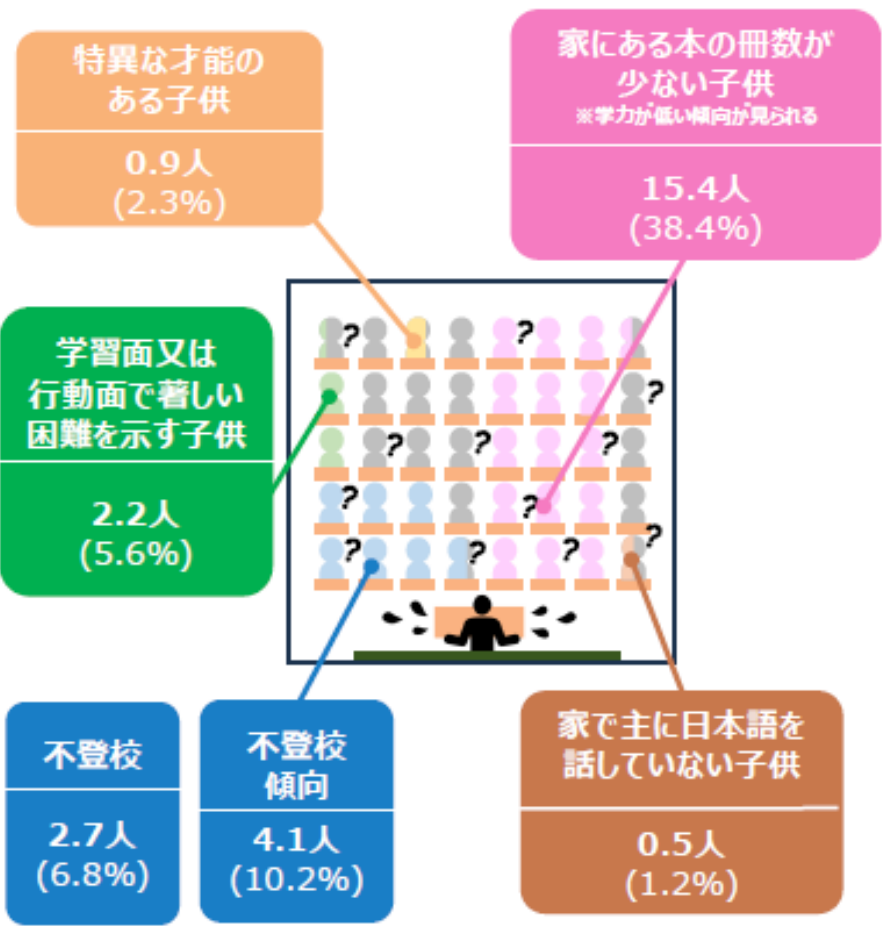
令和7年9月25日
教育課程企画特別部会
論点整理 P.27

- どの学校でも、多様な個性や特性を有する子供が在籍している実態が顕在化。多様性を包摂し、一人一人の意欲を高め、可能性を開花させる教育の実現が喫緊の課題

小学校（35人学級）



中学校（40人学級）



※諮問参考資料P46,47より一部データを更新して作成 (https://www.mext.go.jp/content/20242127-mxt_kyoiku01-000039494_03.pdf)
※特異な才能のある子供：IQ130以上を仮定しているが、多様な基準や考え方が存在し、要因が複合している場合もある。そのため、多様な種類・程度の特性がある子供がおり、その対象範囲は想定よりも広いとも考えられる。

チーム担任制

（理念）

- 複数の目で、一人一人の子どもたちを見ていく。
- 複数の教員等で、日々の出来事や教育活動に対応していく。

（目的）

- 多面的に児童生徒を見ることで、変化に気づく体制をつくる。
- 多くの教職員との活動や対話を通して、児童生徒の多様な能力をのばす体制をつくる。
- 教職員が連携することで、日常的なOJTが行われ、指導力の向上が図れる体制をつくる。

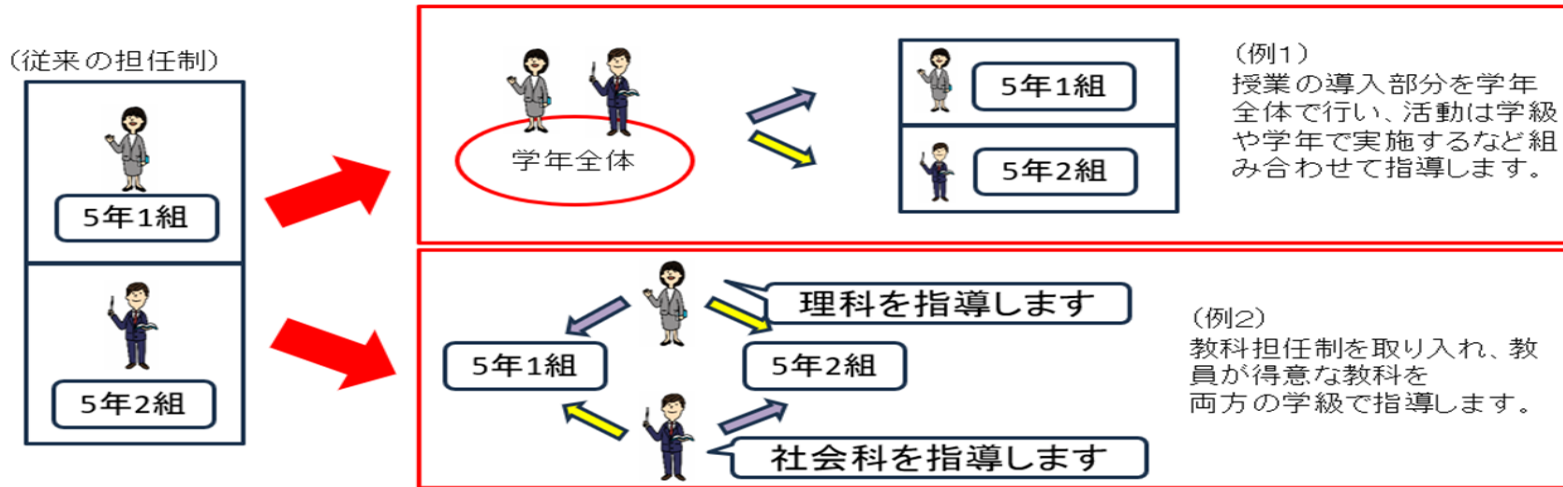
チーム担任制

○チーム担任制には決まった定義はない。学校や学級の実情に合わせて様々な形態や方法が考えられる。

Aタイプ【担任をローテーションしながら学級経営、学年経営を行う体制】



Bタイプ【担任は固定するが、合同授業や交換授業を意図的に行う体制】



文科初第824号令和8年6月17日
学校教育法等の一部を改正する法律の公布について（通知）別添1

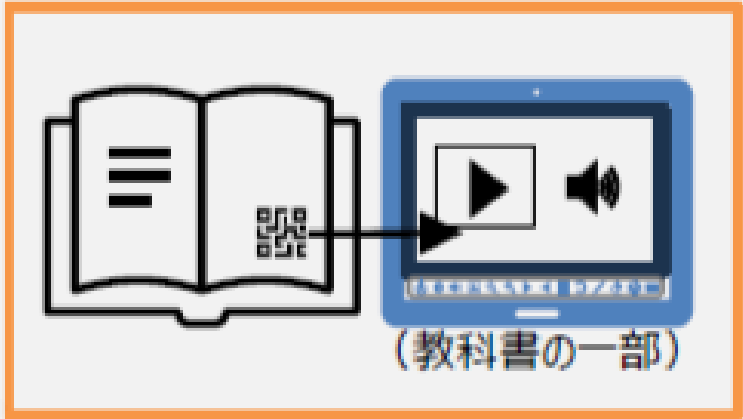
新しい教科書の形態について

【制度改正後のイメージ】

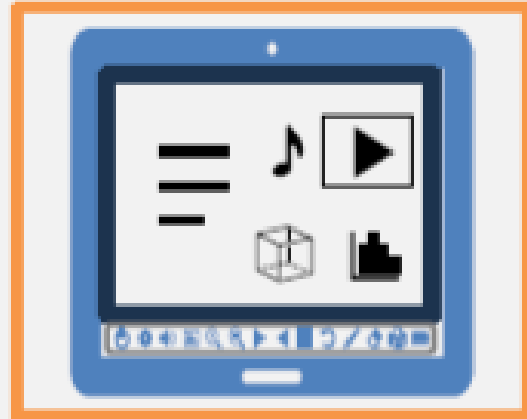
いずれの形態も「教科書」



教科書（紙）



教科書（紙＋デジタル）
（教科書の一部）



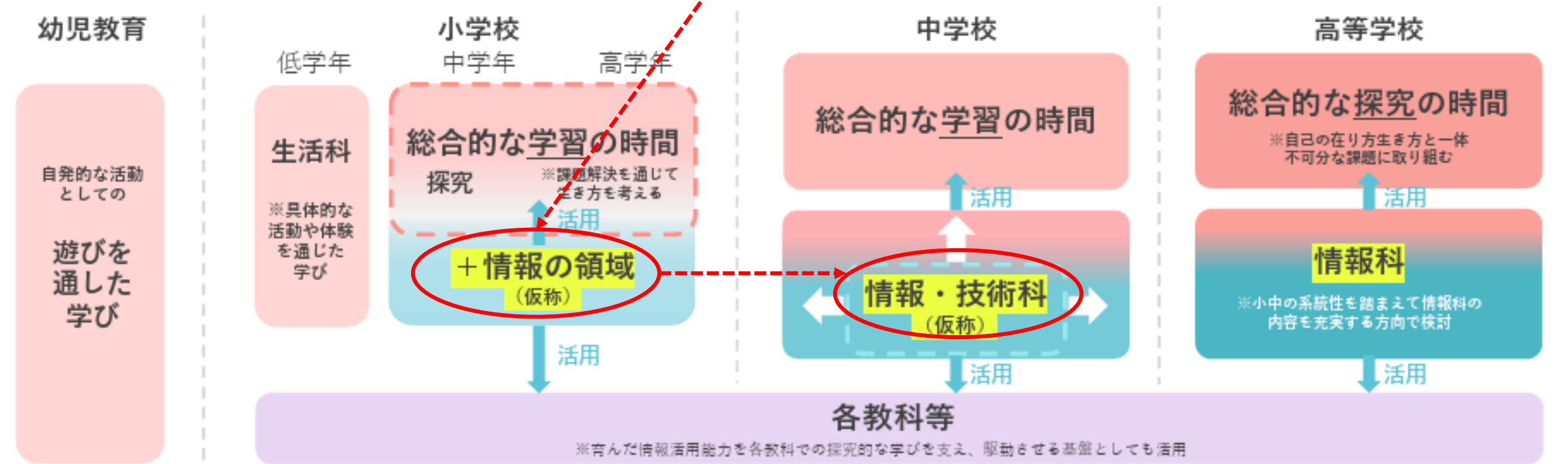
教科書（デジタル）

2030年から（市町村教育委員会が**選択**）

4.情報活用能力の抜本的向上を図る方策とは？

情報活用能力の抜本的向上と質の高い探究的な学びの実現

💡 情報活用能力を各教科も含めた探究的な学びを支える基盤と位置づけ、小中高を通じた体系的・抜本的な教育内容の充実を行う。デジタルの負の側面にも対応しながら情報技術を自在に活用して課題解決ができる人材を育成する。



令和8年7月8日
教育課程部会総則・評価特別部会 資料1

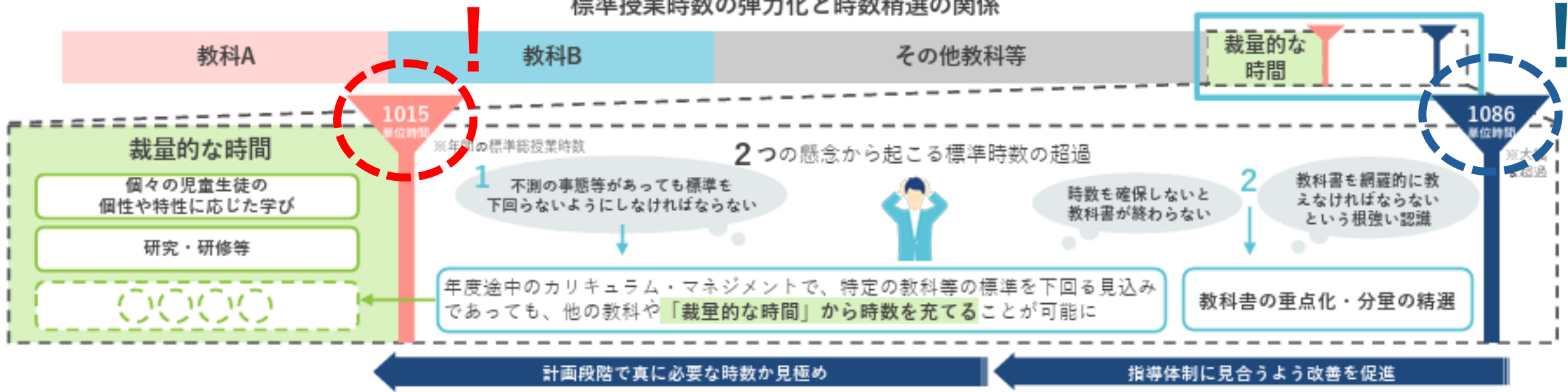
情報活用能力は**学習の基盤**となる資質・能力

5.教育の質向上のための「余白」の創出とは？



週当たりの時数の見直しや標準授業時数の弾力化、学習指導要領の構造化、教科書等の改善など総合的に対応。教師と子供たちに「余白」を生み出し教育の質の向上を図る。

標準授業時数の弾力化と時数精選の関係



令和8年7月8日
教育課程部会総則・評価特別部会 資料1

質の向上には余白が必要（適正な時間の設定）

第4回超低出生時代を迎えた 津久見市の小学校の在り方検討委員会

- 1 子どもの願い (アンケートから)
- 2 学びの環境 (ヒト・モノ・ジカン)
- 3 学びの設計図 (教育課程)**
- 4 未来の教室 (紹介)
- 5 めざす姿 (津久見市)

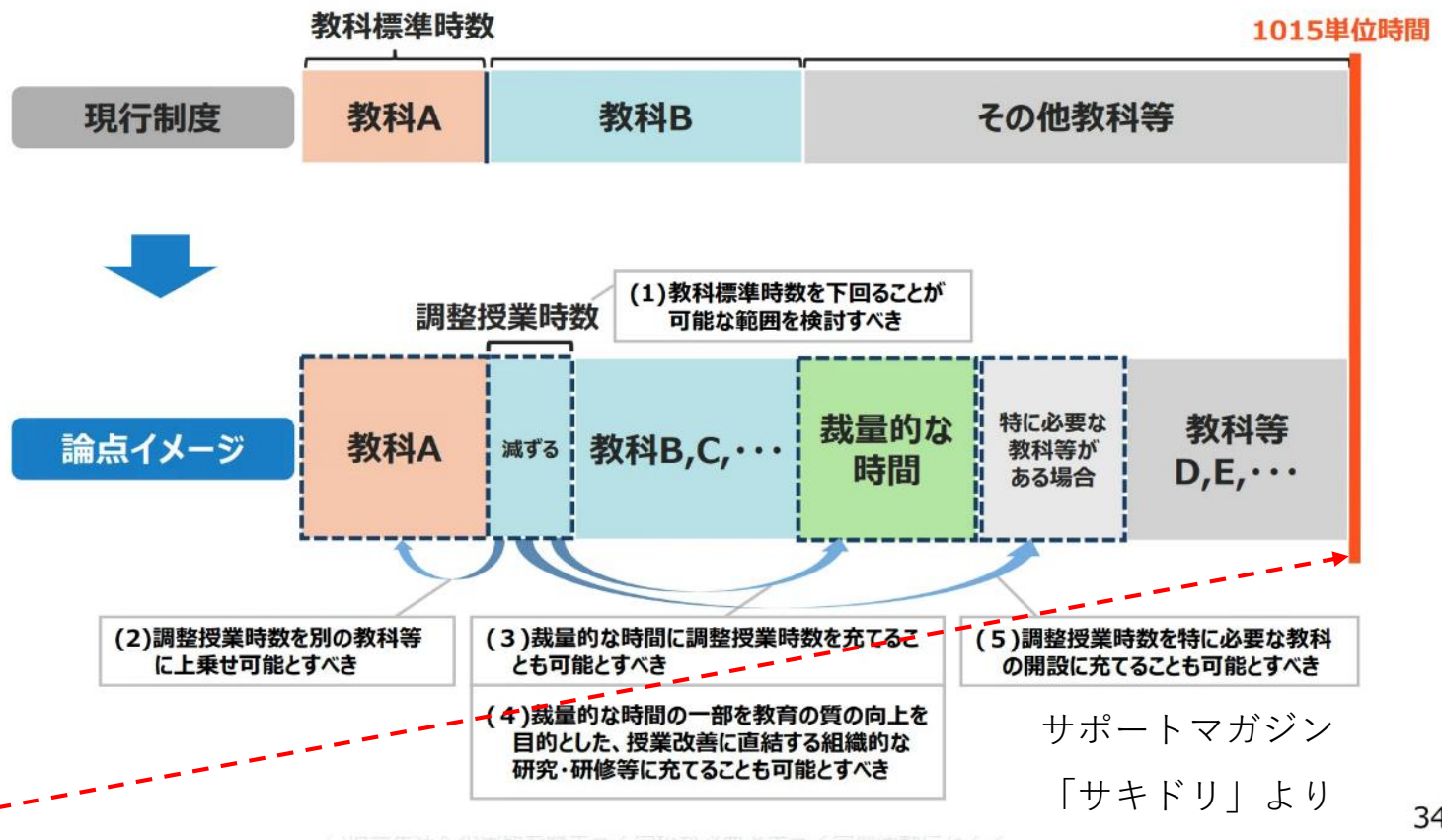
小学校の標準授業時数

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
国語	306	315	245	245	175	175
社会	-	-	70	90	100	105
算数	136	175	175	175	175	175
理科	-	-	90	105	105	105
生活	102	105	-	-	-	-
音楽	68	70	60	60	50	50
図画工作	68	70	60	60	50	50
家庭	-	-	-	-	60	55
体育	102	105	105	105	90	90
特別の教科 道徳	34	35	35	35	35	35
特別活動	34	35	35	35	35	35
総合的な 学習の時間	-	-	70	70	70	70
外国語活動	-	-	35	35	-	-
外国語	-	-	-	-	70	70
合計	850	910	980	1015	1015	1015

備考
一 この表の授業時数の一単位時間は、四十五分とする。
二 特別活動の授業時数は、小学校学習指導要領で定める学級活動（学校給食に係るものを除く。）に充てるものとする。
三 第五十条第二項の場合において、特別の教科である道徳のほかにも宗教を加えるときは、宗教の授業時数をもつてこの表の特別の教科である道徳の授業時数の一部に代えることができる。（別表第二から別表第二の三まで及び別表第四の場合においても同様とする。）

義務教育段階の柔軟な教育課程の方向性（調整授業時数制度）

多様な個性や特性、背景を有する子供たちを包摂する柔軟な教育課程編成を促進するため、児童生徒や地域の実態を踏まえて、必要に応じて以下のような取組の一部又は全部の実施を可能とする方向で検討



津久見小学校（2）特別活動を+35単位時間 （4）特別活動の研究
※3年生以上の算数、5・6年生の理科は時間を減じていない

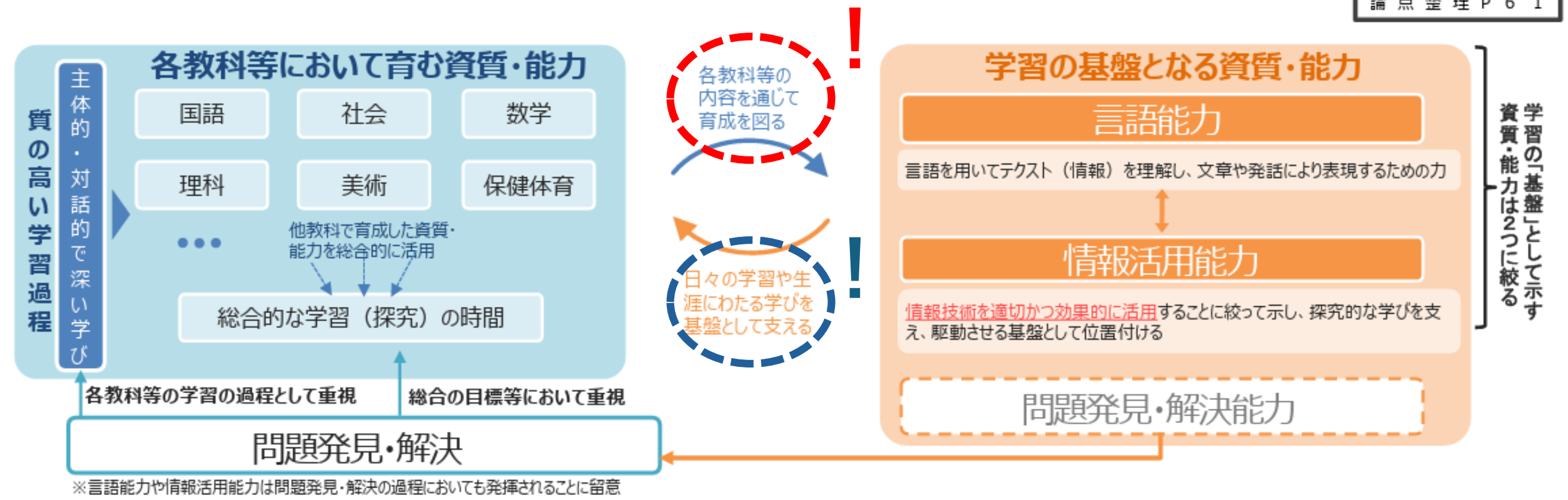
学校独自の特色を打ち出すことが可能となる

第4回超低出生時代を迎えた 津久見市の小学校の在り方検討委員会

- 1 子どもの願い (アンケートから)
- 2 学びの環境 (ヒト・モノ・ジカン)
- 3 学びの設計図 (教育課程)
- 4 未来の教室 (紹介)**
- 5 めざす姿 (津久見市)

「学習の基盤となる資質・能力」の整理の方向性

参 考 資 料 ①
令和7年9月25日
教育課程企画特別部会
論 点 整 理 P 6 1



基盤となる資質・能力の育成に向けた**施設**が求められる

第4回超低出生時代を迎えた 津久見市の小学校の在り方検討委員会

- 1 子どもの願い (アンケートから)
- 2 学びの環境 (ヒト・モノ・ジカン)
- 3 学びの設計図 (教育課程)
- 4 未来の教室 (紹介)
- 5 めざす姿 (津久見市)



令和8年度

津久見市学校教育指導方針

津久見市教育委員会



津久見市
教育委員会HPより

指導目標 ふるさとを愛し、自ら学ぶ意欲と活力に満ちた津久見っ子の育成

超低出生時代を迎えた
津久見市の**小学校の在り方**



津久見市のこどもたちの
今と**「これから」**にとって
最もよいことが優先されていくこと